

## 箱庭制作後のイメージの在り方について

本研究では、箱庭を制作した後に生成されたイメージが、制作者の中でどのように在り続けるのかについて、検討した。大学生・大学院生計 16 名を対象に箱庭制作後と、1 週間～10 日後に箱庭を制作することで生成されたイメージが、どのように変化もしくは変化せずに、制作者の中に残ったのかについて、修正版グランデッド・セオリーアプローチを用いて検討を行った。その結果、6 つのカテゴリーと 27 の概念が生成された。箱庭制作前から、制作者の中で前意識的な抽象イメージが生成され、現実的な制限やイメージの特性などの要因が複雑に絡み合い、イメージが動き、変化しながらも制作が進められていくということが窺われた。さらに、箱庭制作の 1 週間後に箱庭を想起してもらった際、箱庭を制作したときの体験も変わらずに想起される場合や 1 週間後に制作者の中で異なった体験になっていたということが窺われた。箱庭があることでイメージが動いていくわけではなく、箱庭がなくとも生成されたイメージは制作者の中で、自律的な力が働くということが考えられる。また、1 週間後も変わらずに制作者の中で在り続けるということは、変わらないという一つの在り方であり、制作者の中で次回に繋げようとするバトンのような役割を担っていることが考えられた。